

映画「ミッドナイト・バス」鑑賞

本紙百四十周年記念としてつくられた映画「ミッドナイト・バス」を妻と二人で見た。本県を舞台にしたこの映画は深夜バス運転士・高宮利一を原田泰造さんが主演を演じる。二時間四十五分という長い映画だった。撮影は新潟の万代橋や白鳥の飛ぶシーン。佐渡の風景など新潟県の各地がふんだんに出てきてとても印象的だった。高宮以外にも様々な人物が登場する。高宮の元妻美雪、高宮の東京の恋人志穂、そして高宮の息子怜司、娘彩菜。そうして人たちがそれぞれの人生を勝手に生きている姿を描いている。この映画は家族がテーマであるが、家族の何を描こうとしているのか、と帰りの車の中で妻と話し合った。主人公は東京に恋人がいながら、偶然再会した元妻との同情が愛情にかわりつつある。その元妻美雪には認知症を患う父敬三がいる。この複雑な人間模様で家族のバラバラな生き方、男の勝手さが気になると妻は言う。チラシにあった「道の先が分かれていますもいつだって、家族は先にある」というように私は家族の絆の強さを思った。いまそれが崩れつつあるのではないだろうか。あっという間の三時間であった。